

学位論文内容の要旨

論文提出者氏名	田 中 泰 恵
<p>(論文題目)</p> <p style="text-align: center;">「介護実習」をめぐる学校と施設の協働関係の構築に関する研究 －福祉系高等学校における「介護実習」への提言－</p>	
<p>(内容の要旨)</p> <p>福祉系高等学校における「介護実習」は福祉人材を養成するための専門教育科目として、施設などの現場において実践される総合的な学習である。生徒が体験を通して社会や利用者とかかわり、成長していくその姿から、「介護実習」は学校では得られない貴重な学びの場となっており教育的意義も大きい。一方、福祉現場にとって、豊かな実習経験を提供することは、すなわち、質の高い人材の育成につながり、次代の福祉人材養成の立場からも、実習生受け入れとその指導は重要である。</p> <p>しかし、「介護実習」をめぐる学校と施設の間には①実習指導が協働体制で行われていないため、校内の学習と施設での実践にズレが生じている。②実習生理解のズレから実習指導に齟齬が生じている。③実習指導内容の認識のズレから効果的な介護実習の実施を難しくしているといった問題がある。これ等の主な原因として①実習内容に関して伝えるべき内容が伝わっていないこと、②伝える組織が十分に機能していないことがあげられる。これら2つの問題解決には学校と施設の協働関係の構築が必要と考える。</p> <p>本研究は、先行研究から導き出した4つの分析視点である①全体性と連続性、②順序性、③焦点化、④相互作用を用いて「介護実習」を分析することである。それは、「介護実習」を、実習全体から見ることであり、細部を見ることであり、協働を浮き彫りにすることができるのが特徴である。こうした作業を通して、学校と施設の協働関係の構築に必要な具体的方策を提案して行くものである。</p> <p>第1章では、福祉系高等学校における介護福祉教育、特に介護実習の位置づけを述べる。第2章では先行研究から協働をめぐる4つの分析視点を抽出する。第3章では事例的検討として、A校及び施設への実態調査を実施し、対象校の介護実習の実態を協働の観点から明らかにする。第4章では学校と施設の全国調査を実施し、介護実習を取りまく全国的動向や課題を整理し、協働に関する実態を明らかにする。これ等を受けて第5章では、「介護実習」をめぐる学校と施設の協働関係の構築に向けての提言を行う。すなわち、明らかになった実態をふまえ、①実習内容充実のためのズレの克服や実習生理解を進めるための提言、②学校と施設をつなぐパイプとしての組織の構築のための提言を行う。</p> <p>提言の内容は、「情報共有による実習生理解」「効果的な実習期間の設定」「学習の順序性を認識した指導」「発達に見合った教育的配慮」「意義ある体験に昇華させる指導」「連絡協議会や巡回指導の活用」「実習指導体制の再点検」「一歩踏み出した関係づくり」「介護実習のためのネットワークづくり」などである。</p> <p>こうした提言の実践により、学校と施設の協働関係が改善され、学校と施設の指導の共通理解と協働がもたらされ、指導の一貫性や標準化、生徒の学びの身体化と深化が期待され、より豊かな「介護実習」が展開できると考える。</p>	

